

# 2

## 2 植物の分類(1)

### 身近な植物の分類 果実をつくる花のつくり 裸子植物と被子植物

月 日

#### 1 身近な植物の分類

植物には、花がさくものやさかないもの、実がなるものやならないものなど、さまざまな種類がある。

#### 2 果実をつくる花のつくり

(1) 花のつくり 多くの花は、外側から順に、がく・花弁・おしべ・めしべでできている。→①

① **めしべ** 中央に1本ある。

・ **柱頭** めしべの先端の部分。花粉がつきやすい。

・ **子房** めしべの下部のふくらんだ部分。

・ **胚珠** 子房の中にある小さな粒。

② **おしべ** めしべのまわりに数本ある。→植物によって数がちがう。

・ **やく** おしべの先にあるふくろ。

・ **花粉** やくの中に入っている粉のようなもの。

③ **花弁** おしべのまわりを包んでいる。

④ **がく** 花弁の外側にある。→花弁やがくのない花もある。

(2) **受粉** 花粉がめしべの柱頭につくこと。→②

① **果実** 受粉の後、子房は成長して果実になる。

② **種子** 受粉の後、胚珠は成長して種子になる。

(3) **種子植物** 花がさき、種子をつくる植物。種子をつくるにはおしべ(花粉)とめしべ(胚珠)が必要である。

#### 3 裸子植物と被子植物

(1) **マツの花のつくり** 雌花と雄花の区別がある。→③

① **雌花** りん片には、むき出しの胚珠がついている。

② **雄花** りん片には、花粉のうという花粉が入ったふくろがついている。→花粉のうは、被子植物のやくにあたる。

③ **マツの受粉** 花粉が直接胚珠につく。→種子は受粉の翌年の秋にできる。

(2) **裸子植物** 胚珠がむき出しの植物。→子房がないので、果実はできない。

例 マツ、スギ、イチヨウ、ソテツなど→針葉をもつのは裸子植物。

(3) **被子植物** 胚珠が子房に包まれている植物。→果実ができる。

例 サクラ、アブラナ、エンドウ、タンポポ、フジなど

(4) **被子植物の分類** 葉脈という葉のすじや根のようすなどから2つのグループに分けることができる。→④

① **単子葉類** 葉脈が平行に通じ、子葉が1枚で、ひげ根をもつ被子植物。

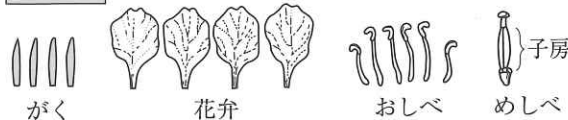
例 トウモロコシ、スズメノカタビラ、イネ、ササなど

② **双子葉類** 葉脈が網目状に通じ、子葉が2枚で、主根と側根をもつ被子植物。→主根…1本の太い根。側根…主根からのびる細い根。

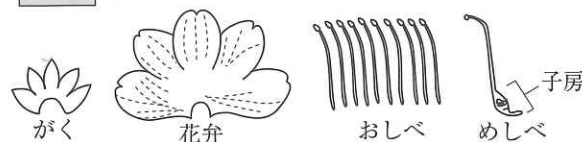
例 ヒマワリ、アサガオ、サクラ、アブラナなど

#### 1 花のつくり

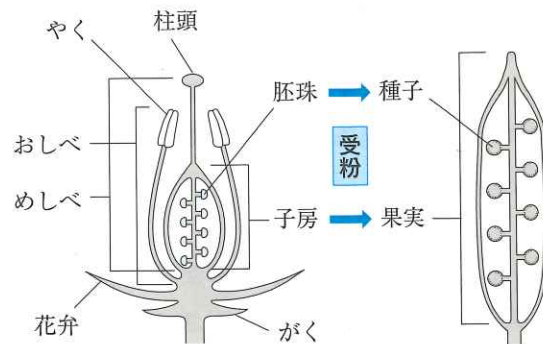
**アブラナ** 花弁が離れている。



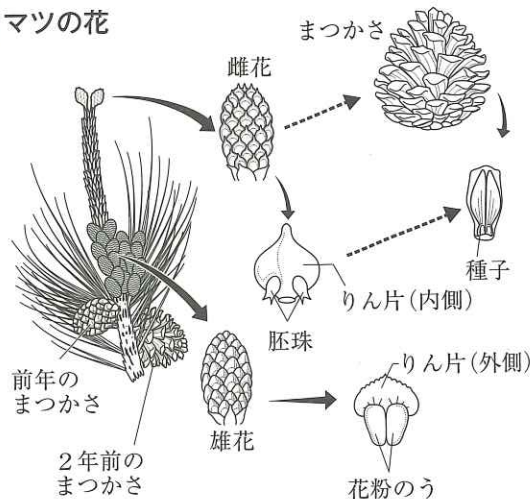
**ツツジ** 花弁がくっついている。



#### 2 種子と果実



#### 3 マツの花



#### 4 単子葉類と双子葉類

	単子葉類	双子葉類
子葉	1枚	2枚
葉脈	平行	網目状
根	ひげ根	主根 側根 主根と側根